

(公財) 日本習字教育財団 観峰館

令和4年(2022)度春季特別企画展

いんげんりゆうき

おんき

隠元隆琦350年遠諱

おうばく

黄檗インパクト

会期 4月16日(土) ～ 6月12日(日)

前期 4月16日(土) ～ 5月15日(日)

後期 5月17日(火) ～ 6月12日(日)

展示出品リスト

*展覧会情報は、下記QRコードを読み込んでください。



(公財)日本習字教育財団 観峰館 令和4年度 春季企画展

隠元隆琦350年遠諱 黄檗インパクト

2022年4月16日(土)～6月12日(日) (前期: 4/16～5/15 後期: 5/17～6/12)

出品リスト

No.	期間	所蔵	作品名	作者	員数	制作年代
1st. 隠元隆琦						
1	全	萬福寺	費隠通容像	費隠通容/自賛 張琦/画	1	明・崇禎15年(1642)
2	全	正瑞寺	隠元騎獅像	隠元隆琦/自賛 喜多道矩/画	1	江戸前期
3	全	小松寺	隠元隆琦像	隠元隆琦/自賛 喜多道矩/画	1	江戸前期
4	全	小松寺	木庵性瑠像	木庵性瑠/自賛 喜多道矩/画	1	寛文4年(1664)
5	全	萬福寺	八十自祝偈	隠元隆琦/書 (鶴亭/画)	1	寛文6年(1666)
6	前期	正法寺	釈迦如来像	隠元隆琦/賛 逸然性融/画	1	明暦2年(1656)
7	全	萬福寺	達磨像	隠元隆琦/賛 狩野探幽/画	1	明暦3年(1657) 春
8	全	観峰館	達磨像	隠元隆琦/賛 逸然性融/画	1	明暦3年(1657) 夏
9	後期	小松寺	楊柳観音像	隠元隆琦/賛 逸然性融/画	1	寛文元年(1661)
10	全	萬福寺	遺偈	隠元隆琦/書	1	寛文13年(1673)
2nd. 東近江の黄檗宗寺院						
11	全	正明寺	龍溪性潜像	即非如一/賛 喜多元規/画	1	江戸前期
12	全	正瑞寺	太虚道清像	妙庵普最/賛	1	江戸後期(文化年間)
13	全	正瑞寺	梅嶺道雪像	梅嶺道雪/自賛	1	天和2年(1682)
14	全	小松寺	鉄眼道光像	月潭道澂/賛	1	江戸前期
15	前期	小松寺	墨跡「露」	鉄眼道光/書	1	江戸前期
16	全	正明寺	達磨像	即非如一/賛 逸然性融/画	1	万治3年(1660)
17	後期	小松寺	釈迦・迦葉・阿難図	即非如一/賛 逸然性融/画	1	寛文5年(1665)
3rd. 隠元隆琦と如雪文蔵						
18	全	正法寺	如雪文蔵像	如雪文蔵/賛 木村徳栄/画	1	江戸前期
19	全	正法寺	遺偈	如雪文蔵/書	1	寛文11年(1671)
20	全	正法寺	挽如雪文蔵偈	隠元隆琦/書	1	寛文11年(1671)
21	全	正法寺	挽如雪文蔵偈	木庵性瑠/書	1	寛文11年(1671)
22	後期	永源寺	◎額字「大寂塔」	隠元隆琦/書	1	万治3年(1660)
23	前期	永源寺	◎初祖名号	隠元隆琦/書	1	江戸前期
24	前期	永源寺	◎瑞気映南山	隠元隆琦/書	1	寛文11年(1671)
25	前期	永源寺	◎額字「重玄門」	独立性易/書	1	万治3年(1660)
26	後期	永源寺	◎額字「木衆堂」	独立性易/書	1	万治3年(1660)
4th. 黄檗インパクト						
27	全	乾徳寺	額字「乾徳寺」	隠元隆琦/書	1	江戸前期
28	全	瓦屋寺	額字「瓦屋寺」	即非如一/書	1	江戸前期
29	前期	瓦屋寺	三代祖師名号	隠元隆琦・木庵性瑠・慧林性機/書	3	江戸前期
30	全	正明寺	後水尾法皇像	真敬法親王/賛	1	宝永2年(1705)
31	全	正明寺	照山元瑤像	照山元瑤/自賛	1	宝永2年(1705) 賛
32	全	正明寺	馬郎婦観音像	伝 照山元瑤/作	1	江戸中期
33	全	正明寺	鷹図	照山元瑤/寄進	1	江戸中期
34	全	小松寺	隸書般若心経	近衛家熙/書	1	正徳2年(1712)
35	前期	大徳寺	香山祖桂像	香山祖桂/自賛 木村徳栄/画	1	延宝5年(1677)
36	後期	小松寺	誕生釈迦瑞相図	木村徳栄/画	1	江戸前期
37	後期	大徳寺	釈迦如来像	木村徳栄/画	1	江戸前期
5th. 魅惑の黄檗美術						
38	後期	正法寺	釈迦・文殊・普賢像	如雪文蔵/賛 独長性亨/画	1	江戸前期
39	前期	正宗寺	歳寒三友図	月潭道澂/賛 蘭谷元定/画	1	元禄15年(1702)
40	前期	萬年寺	観音像	蘭谷元定/刻	1	江戸前期
41	展示替	正明寺	十八羅漢図	隠元隆琦/賛 蘭溪若芝/画	4	寛文12年(1672)
42	展示替	正宗寺	十八羅漢図	蘭溪若芝/画	4	江戸前期
43	展示替	松雲寺	十八羅漢図	蘭溪若芝/画	4	元禄14年(1701)
44	全	円満寺	涅槃図	小原慶雲/画	1	享保6年(1721)
45	後期	曹源寺	鯉魚図	葛蛇玉/画	3	江戸中期
46	後期	萬福寺	蒲庵浄英像	蒲庵浄英/自賛 伊藤若冲/画	1	寛政7年(1795)
47	全	清源寺	五言句対幅	無染浄善/書	2	江戸中期
48	前期	細見美術館	瓢筆・牡丹図	無染浄善・桂洲道倫/賛 伊藤若冲/画	2	江戸中期
49	全	個人蔵	維摩居士像	無染浄善・桂洲道倫/賛 広渡心海/画	1	寛文2年(1664)
50	前期	清源寺	釈迦・黄檗・臨濟像	狩野氏信	3	江戸後期

※1 ◎は国の指定文化財(重要文化財) ※2 作品状態等により、展示期間が変更になる場合があります。

はじめに く時代よ、動け！

黄檗宗の宗祖・隠元隆琦（1592〜1673）の来朝は、臨済宗を中心とする禅宗寺院に大きな「インパクト」をもたらしました。

江戸前期の近江は、室町時代後期の戦乱により荒廃した寺院が多く、それらの再興にあたっては、黄檗僧が多く関与しました。この東近江地域に目を向けると、永源寺に隠元が当山し住持であった如雪文巖（1601〜1671）と交流したと伝わるほか、後水尾法皇の深い帰依を受けた龍溪性潜（1602〜1670）が中興開山となつた正明寺（蒲生郡日野町）など、多くの黄檗寺院が点在しています。

そして、黄檗僧ならびに近江商人がもたらした中国舶来の書画は、羨望の眼差しの中で受け入れられ、多くの寺院に寄進され什物となつたほか、地域の書画家に影響を与えました。この事実から、同地域が京都・大阪とは異なる文化を築いたともいえるでしょう。

おこきの展覧会では、隠元隆琦禅師350年遠諱にあたり、東近江地域の所縁の寺院に伝わる所蔵品を中心として、黄檗宗のもたらした「インパクト」を探ります。

最後に、ご協力を賜りました関係者の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

主催者

1st 隠元隆琦

隠元隆琦は、京都宇治に萬福寺を開創し、その地を拠点として近江にも多くの影響を与えている。隠元の墨跡ならびに絵画作品への賛にみえる隠元の作品を紹介する。

（主な出品作品）

No.2 隠元騎獅像

隠元隆琦 自賛 喜多道矩画 江戸前期
正瑞寺（東近江市）所蔵



獅子に倚坐し拄杖をつく特異な隠元隆琦の肖像は、隠元渡来から黄檗開山までの時期に描かれたと考えられる。

正瑞寺所蔵本は、賛句から類推するに、普門寺に移った明暦年間に描かれたもので、肖像は、「隠元かきの長兵衛」と称された喜多道矩（？〜1663）によるもの。喜多道矩は同じく黄檗頂相画家である楊道真に

学び、明暦3年（1657）頃より、黄檗頂相の多くを描いた画家である。

【釈文】

騎獅子何処去未哮
吼驚人句頭而不耀
隱而弥著
杖頭挑出無多子
一任諸人辞指
註 老僧隱元自題

No.3 隠元隆琦像

隠元隆琦 自賛 喜多道矩画 江戸前期
小松寺（東近江市）所蔵



小松寺の頂相は、正瑞寺所蔵のものとは異なり、曲泉に坐し、正面向きに描かれた黄檗の基本的な頂相画である。左手には扠手、右手には拄杖を執り胸近くまで引き寄せている。また曲泉の木目を丹念に描いている。

本来、頂相は伝法の証であり、面相の陰影表現にみる写実性や図様の正面性は、師

と対面する際の緊張感を高める効果があった。その影響は、他の頂相にも影響を与えることとなる。

【釈文】

黄檗永当枝葉長老
一相兩名無萬不可美
法孫伝徧大千意声
弥希無々鳥
老僧隠元琦自題

No. 5 八十自祝偈
隠元隆琦 書 鶴亭 画 寛文6年（1666） 萬福寺（京都市）所蔵

寛文6年11月4日、隠元80歳を記念した、自祝の偈である。同日には、盛大な寿筵が催され、寿章の多くが寄せられたが、それに答えた詩偈の一首である。

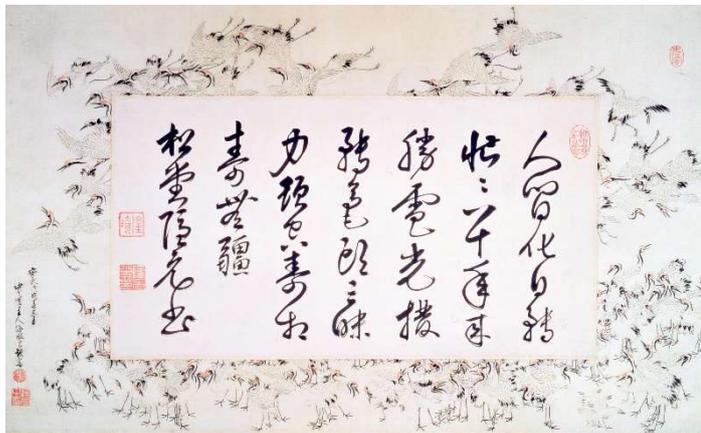
現在この作品は、純本水墨に朱彩の群鶴図で飾られ、表装されている。この絵は、安永7年（1778）3月、塔頭の紫雲院の住持であった海眼浄光こと鶴亭（1722〜1786）が描いたもので、隠元の祝偈に彩りを添えている。

【釈文】

人間化日転忙々
八十年来勝電光

撥転毫頭三昧力
頓空寿相寿無疆
松堂隠元書

安永戊戌春三月 紫雲主人海眼光敬書



2 nd 東近江の黄檗宗寺院

東近江地域には、江戸時代に旧来の寺院を再興して成立した黄檗宗寺院が多く点在する。ここでは、正瑞寺、小松寺、正明寺の三箇寺の所蔵品に注目し、その歴史を紐

解く。

No. 11 龍溪性潜像

即非如一 贊 喜多元規 画 江戸前期
正明寺（日野町）所蔵



龍溪性潜（1602〜1670）は、京都に生まれ、妙心寺住持の時代に、隠元を招請しようとして、果たせず摂津・普門寺へ迎えた。隠元の積極的な支援者であり、萬福寺建立などを実現させた。六十三歳の時、隠元の嗣法を受け、後水尾法皇の深い帰依を受けて、正明寺の中興開山となった。肖像は、喜多道矩の息子・元規が描いている。

【釈文】

大宗正統禪師道影
讚

量舒々体如々忘浄
穢挺芙蕖処丈室猶

太虚（ シ 十耳十少）湘海若溝渠

上賜号名不居統有

宗徳乃余勿住着念

衣孟趙老婆尚倚闍

歳上章闍茂

菊月望

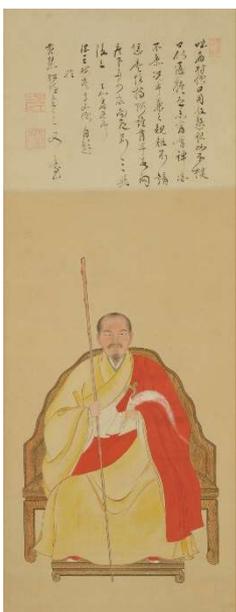
聖寿山法兄即非（禾十命）南

題

No.13 梅嶺道雪像

梅嶺道雪 自賛 天和2年（1682）

正瑞寺（東近江市）所蔵



梅嶺道雪（1641～1717）は、肥

前・小城に生まれ、寛文3年（1663）、

即非如一に参謁し、梅嶺の法名を受けた。

延宝2年（1674）、太虚道清の再興した

正瑞寺の住持となっている。その後、近江

八幡市・正宗寺や福寿寺に入り、師の大眉

性善（1616～1673）と共に再興に

力を尽くした。

この肖像は、福寿寺や潮音寺等に所蔵さ
れるが、最も若年の姿を描いたものである。

No.14 鉄眼道光像

月潭道激 賛（絵師不明）

小松寺（東近江市）所蔵

江戸前期



鉄眼道光（1630～1682）は、肥

後国の出身で、長崎・興福寺にて隠元に参

謁し、後に木庵の元に参じた。寛文9年

（1669）、隠元より明版大蔵経を贈られ

ると、京都・宝蔵院を拠点として、開版事

業に着手した。その版木は六万枚にも及び、

その大半が重要文化財に指定されている。

鉄眼は小松寺の中興開山であり、同寺に

は肖像が伝わる。宝蔵院の肖像に比べ、

その表情は、厳しさの中に穏やかさを感じ

ることができる。

【釈文】

禅林翹楚

僧海瑞龍

辯流瀑水

景納虚空

曾受宗印

於黄檗室

克嬾願功

於紫柏翁

茂貝樹於諸処耀

慧日於寰中懋哉

箕嶠重興祖水

使兒孫仰道風

峩山道澄和南拝賛

3rd 隠元隆琦と如雪文巖

東近江市の大本山・永源寺の再興に貢献
した如雪文（一六〇一～一六七一）は、隠
元と親密な交流をはかり、永源寺及び末寺
に様々な黄檗文化をもたらした。

No.18 如雪文巖像

如雪文巖 自賛 木村徳栄画 江戸前期

正法寺（京都府和束町）所蔵



如雪文巖（1601～1671）は、一
絲文守の弟子として、師と共に永源寺の再
興に尽力した僧である。如雪は明暦元年
（1655）頃より書簡のやり取りをして
おり、その後も、隠元の永源寺へ招請した

他、萬福寺・松隱堂に隱元を訪問するなど、交流を深めた。

この頂相は、数種類有る如雪の頂相において、隠居した正法寺に伝来するもので、親交のあった烏丸資慶（1622〜1670）の請いにより自賛したもの。

【釈文】

烏丸重將資慶卿一日
凶余之裏質見需贊因綴
拙辞応其請云

這擔板漢甘処岩根空来
今古吞却乾坤堪笑百醜
千拙被描画入官園

嘆 莫將五彩作真相
徒向水中撈月痕
前永源如雪老衲自題

No.20 挽如雪文巖偈

隱元隆琦 書 寛文11年（1671） 正

法寺（京都府和束町）所蔵

隱元は他宗派の禪と多く交誼を結んでいるが、その中であつて如雪文巖とは、親密な関係を築いている。この作品は、この年の4月18日、如雪が示寂した直後、如雪を悼んで隱元が贈ったもの。

【釈文】

年来養徳応林

泉坐脱万縁独情

然如説而行到彼

岸頓空諸相絶言

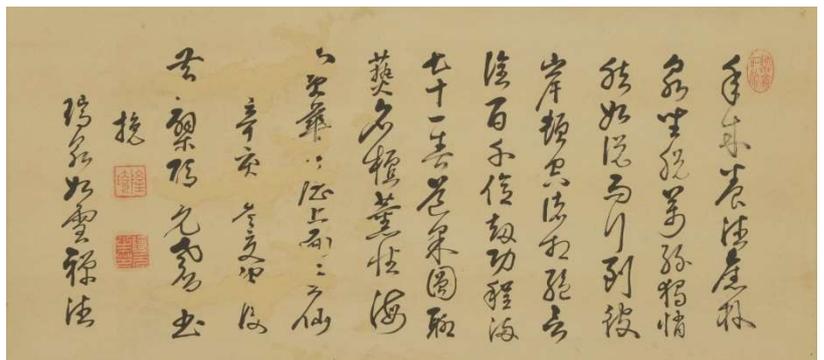
詮百千億劫功程満

七十一春道果円聊

芸名檀薫性海

宝華屋上面口仙

辛亥孟夏望（？）後



黄檗隱元老僧書

挽

瑞泉如雪禪徳

4 th 黄檗インパクト

東近江地域の臨濟宗寺院では、額字や墨跡を黄檗僧が揮毫するなど、黄檗宗は他宗派にも影響を与えた。ここでは、黄檗宗がもたらしたインパクトを採る。

No.27 額字「乾徳寺」

隱元隆琦 書 江戸前期 乾徳寺（東近江市）所蔵

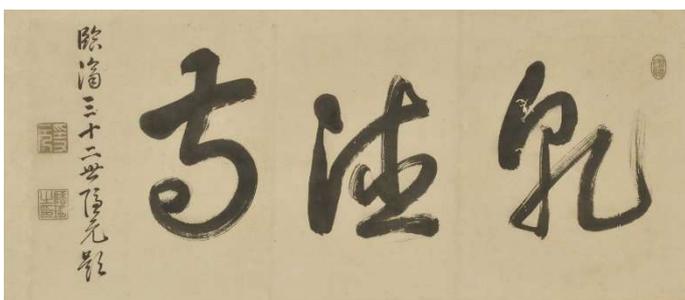
東近江市五個荘川並町にある、臨濟宗妙心寺派の乾徳寺の額字である。

天嶺性空筆の「浄光山乾徳寺記」によると、中興開山の天然會通は、承応3年（1654）7月、隱元隆琦が来朝した報せを受け、直ぐに長崎に赴き、隱元の下で修業したという。その後、乾徳寺開山にあたり、近江に戻る際に、隱元に額字を揮毫してもらったものと伝わる。

【釈文】

乾徳寺

臨濟三十二世隱元題



No.28 額字「瓦屋寺」
即非如一書 江戸前期 瓦屋寺（東近江市）所蔵

東近江市建部瓦屋寺町にある臨濟宗妙心寺派の瓦屋寺の額字。即非如一の揮毫によるもの。瓦屋寺は、江戸時代・正保年間（1644年頃）に、雲居希膺（1582〜1659）の嗣法を受けた香山祖桂（1615〜1686）によって復興されている。この額字を即非に求めた経緯は不詳であるが、寛文3年、4年（1663、64）頃、

即非は萬福寺に滞在していることから、この時期に揮毫を依頼したのかもしれない。

【釈文】
瓦屋寺
雪峰
即非書

No.35 香山祖桂像
香山祖桂 自賛 木村徳栄画 延宝5年（1677） 大徳寺（東近江市）所蔵



香山祖桂（1615〜1686）は、臨濟宗妙心寺派の寺院である大徳寺を實質再興した密雲祖引の師にあたり、瓦屋寺の中興開山でもある。

この頂相は、香山祖桂の自賛による寿像であるが、真つ直ぐに正面を向く描写の方法は、黄檗宗を中心に、江戸時代以降の頂相に見られるもの。同種の例としては、宮城・大仰寺の洞水東初像が著名で、その影響を垣間見ることができる。

5th 魅惑の黄檗美術

蘭溪若芝、小原慶雲など、長崎で活躍し黄檗風の絵画の優品を描いた画家の作品と、その影響を受けた葛蛇玉、伊藤若冲らの絵画作品を取り上げる。

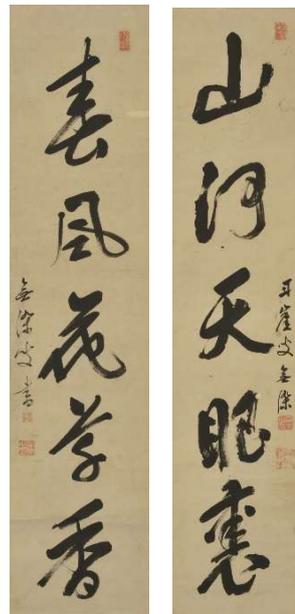
No.45 鯉魚図
葛 蛇玉画 江戸中期 曹源寺（東近江市）所蔵



葛蛇玉（1735～1780）は、大坂の画家で、沈南蘋など舶来の中国絵画を学んだ。この作品は、蛇玉が得意とした鯉を、春、夏、冬の季節ごとに書き分けた、躍動感あふれる作品である。

No.47 五言句対幅

無染浄善 書 江戸中期 清源寺（日野町）所蔵



無染浄善は、東近江市・正瑞寺の檀越・川島家より出た黄檗僧である。直指庵の住持を務める他、詩文書画を善くし、伊藤若冲の画に最も多くの賛記をしていることで知られる。

この作品は、臨済宗永源寺派の清源寺に伝わるもの。清源寺の歴代住持には、無染の兄・謙岩周益がおり、その所縁によって同寺に所蔵されたもの。右聯に「山河は天眼の裏（うち）」、左聯に「春風に花草香ば

し」と書いている。

No.48 瓢箪・牡丹図

無染浄善・桂洲道倫 賛 伊藤若冲 画 江戸中期 細見美術館（京都市）所蔵



瓢箪と牡丹の対幅の作品で、輪郭線のみで瓢箪を、墨の濃淡で牡丹を表現したもの。一見、地味に見える水墨画こそ、若冲の技量を存分に味わうことができる。

瓢箪図の賛は、天龍寺の桂洲道倫（1747～1794）、牡丹図は、正瑞寺の檀越の家より出て黄檗僧となった無染浄善（1693～1764）が書いている。共

に、描かれたモチーフを元に禅の教えを説いたものである。

【釈文】

怪物従空降細身

大顛顛或疑天

嗔惡作業垂拳

頭来打凡夫可怕

也那望通呵々不

要怕子細看成只

是箇葫蘆

衣寶懶杜多題

不事豪華色

豈誇富貴春

若教陸巨見蝶夢

出迷輪

丹崖叟題

2022年4月16日 印刷・出版

編集・発行

公益財団法人 日本習字教育財団 観峰館

所在地 〒529-1142 1

滋賀県東近江市五個荘竜田町136

TEL 0748-48-4141

FAX 0748-48-5475

https://www.kampokan.com